みんなの文芸

俳句・短歌を募集
3日必着
作品には、ふりがなをつけ、住所・氏名・電話番号を明記して企画財政課までお寄せください。
1人1句、1首に限ります。

俳句 根岸茉莉 選　投稿数 16 句

流星や一瞬のこと青春も　皆野　太幡　琉美花

(評)流星は秋の季語。八月の夜更けに多いと言われます。流星群のニュースを聞き、心待ちに空を眺めていたのにほんの一瞬、あまりにも早く流れ去った星でした。「今、この青春も地球上のほんの一刻なのだ」と感慨深い作者。年を重ねて青春時代を懐かしく愛しく思えるよう、なりたい自分になれるように、今を楽しみながら頑張ってください。二句目、木々の風がよく通る実家の広い座敷。蜩(ひぐらし)の声を聞きながら、大の字に寝転んで心身ともにくつろいでいる作者。幸せそうな顔が見えるようです。三句目、子や孫たちとにぎやかに過ごしたお盆も終わり、父母は星に帰って行かれました。万感迫り夜空を見上げる作者です。ずっと優しく見守ってくださることでしょう。

蜩や実家の座敷大の字寝　皆野　島　弘
砧(きぬた)打つ音の偲ばる李白の詩　皆野　萩原　初恵
盆果てて星に帰りし父母仰ぐ　下田野　新井　節子
秋茄子の彩を愛でたる厨かな　三沢　新井　民子
一族の墓所に寄り添う彼岸花　皆野　引間　千鶴
送り火や月隠したる八雲かな　皆野　石原　達也
四代の歓声あがる庭花火　三沢　眞下　杏子
孫等去り静寂(しじま)に戻る今朝の秋　皆野　根岸　詩子
秋立つ日名物団子の旗招く　国神　赤木圭一郎
神棚に柏手打ちて猛暑に出　国神　藤原マキ子

短　歌（投稿順）

賑やかさ消えて猛暑の休み明け孫子去り行く寂しさ募る　皆野　根岸　詩子
昼告げる秩父音頭の歌声が響きゃつられて鼻歌まじりに　皆野　大澤　貴夫
しみじみと聞く「ふるさと」の夕チャイム盂蘭盆帰省の子ら去りゆきて　三沢　眞下　杏子
生きてれば心配尽きぬ大地震台風注意店に米無し　上日野沢　四方田利男
空せみは小枝にしっかとだきついて生きし証しを知らせ旅立つ　国神　藤原マキ子
猫二匹十一才の誕生日酷暑に負けず元気をくれる　下田野　新井　節子
沸湯の地球と言はるる昨今は異常気象の怪となりけり　三沢　新井　民子
ジッパー袋を氷嚢に替え頭を冷やしつつ酷暑に堪える　三沢　新井　叶子
生き抜けば川の向こうでまた逢えるそれを信じて頑張ろうかなぁ　皆野　石原　達也
我が暮し用無き物は多けれど詰まる思いが阻む断捨離　皆野　萩原　初恵
百歳の叔母の写真を側に置き日毎声かけ元気を貰ふ　下日野沢　浅見　豊子
友は航空(そら)俺は車で北海道思い出の地を一人旅する　皆野　戸塚喜久雄
九十二年振り快挙にバロン西硫黄島より寿ぎたらむ　皆野　打木　昭廣
我思う故に我あり夏休み我が道を決め行こうその先　皆野　太幡琉美花
カメムシの多発予報にたぢろぐも庭の枝豆なかなかの出来　皆野　引間　万亀